

不登校児童生徒への対応

―何が彼らを再登校させたのか―



不登校を経験した中3男子の詩

「不登校の経験者にとって、どのような取り組みが効果的なものとなっていたのか？」
当事者である児童生徒の意識及び県内の先生方を対象とした調査研究の結果から
明らかになったことを、リーフレットにまとめました。
これら児童生徒の「声」によって示された取り組みが、
これまでの支援の確認と今後に向けた参考資料となれば幸いです。

平成23年2月

岡山県総合教育センター

不登校の現状と、「きっかけ」をめぐる二つの調査結果



不登校の現状 ※1

平成21年度実数(出現率)

＜小学校＞		
全国	22,327人	(0.32)
岡山	528人	(0.47)
＜中学校＞		
全国	100,105人	(2.77)
岡山	1,743人	(3.06)
＜高等学校＞		
全国	51,728人	(1.55)
岡山	1,377人	(2.53)

不登校の「きっかけ」をめぐる調査結果(中学校)

＜文部科学省調査＞ ※1		＜内閣府調査＞ ※2	
その他本人に関わる問題 (43.0%)	第1位	友人関係 (45.9%)	
いじめを除く友人関係 (19.1%)	第2位	勉強の問題 (34.9%)	
学業の不振 (11.0%)	第3位	学校の先生との関係 (24.8%)	
親子関係をめぐる問題 (9.6%)	第4位	その他 (22.0%)	
病気による欠席 (6.6%)	第5位	入学や進級、転校時になじめなかった (17.4%)	

※1 「児童生徒の問題行動等生徒指導上の諸問題に関する調査」(2010) ... 教職員対象の調査
 ※2 「高校生活及び中学校生活に関するアンケート調査」(2009) ... 生徒対象の調査

不登校の子どもの意識や内面には、何だか切り込みにくい？

先生方にとらえと、不登校の子どもの実感とは少しずれているのかな？
 それだけ「不登校」の原因や背景が、先生方から見えにくくなっているのかな？

「なぜ不登校になったの？」って聞かれると辛いかもしれないけど、「どうして学校に来られるようになったの？」って聞くのはOKじゃない？

先生の「不登校」のとらえ方が画一化しているのかも…

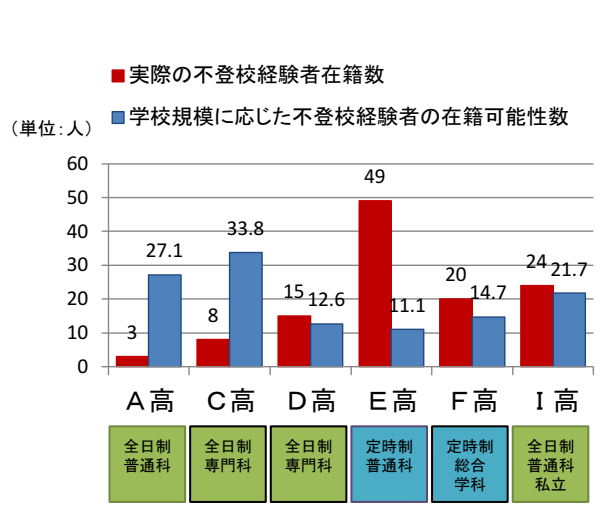
生徒だけでなく、先生にもアンケートしてみたらいいね

先生と子どもの意識がずれているところや合っているところが分かれば、学校復帰の支援のポイントが見えてくるかも…？

どのような取り組みが学校復帰に有効だったのか調べてみよう！

岡山県マスコット「うらっち」と「ももっち」

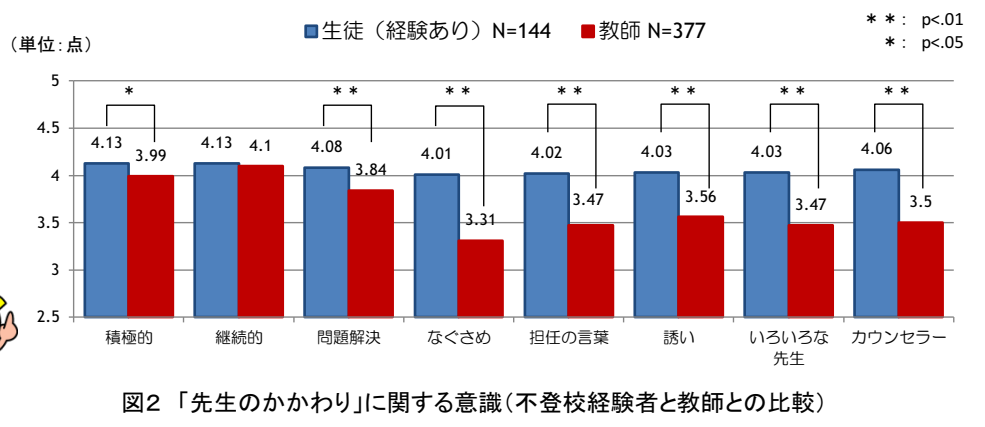
「不登校等に関するアンケート調査」結果 ※3



- 表1 不登校経験者が答えた「学校復帰」に効果のあった事柄(42項目中上位10項目)
 (「ある」を5点～「ない」を1点(5件法)として算出した平均点)
- ①進級、進学、転校など環境が変わったから(4.28)
 - ②家族が支えてくれたから(4.18)
 - ③家族が理解して待ってくれたから(4.17)
 - ④進級や進学への危機感を持ったことから(4.16)
 - ⑤学校やクラスになじみやすかったから(4.15)
 - ⑥友達からの積極的なかかわりがあったから(4.15)
 - ⑦ひらきなおれたから(4.15)
 - ⑧何となく、自然に(4.15)
 - ⑨先生の積極的なかかわりがあったから(4.13)
 - ⑩先生の継続的なかかわりがあったから(4.13)

不登校経験のある生徒は、「学校復帰」の時の先生からの支援について、先生以上に有効と感じているんだね

先生方のかかわりを待っているのかな？



不登校経験者の高校3年時の在籍校に偏りがあるね

情緒的サポートと道具的サポート、情動的サポートの組合せが必要？

先生のかかわりが効果的

(参考)4種類のサポート

- ①情緒的サポート: 声をかける, 励ます
- ②情動的サポート: 進路情報など, アドバイスを与える
- ③評価的サポート: 評価(肯定, 意見など)をフィードバックする
- ④道具的サポート: 場所や時間の提供, 設定をする, 手伝う など

表2 不登校経験者と教師で評価が分かれた項目 (単位: 点)

項目	生徒	教師	差
親にしかられたから	4.03	2.23	1.79
親に行くように言われたから	4.07	2.62	1.45
先生や親に将来の不安について言われたから	4.06	2.68	1.38
遅刻してでも学校に行く方が精神的に楽だったから	4.05	2.69	1.36
教育センターに行ったから	4.02	2.71	1.32
家にいてもつまらなかったから	4.08	2.81	1.27
キャンプなどの行事に参加したから	4.01	2.78	1.22
同じような人が学校やクラスにいたことが分かったから	4.08	2.88	1.20
病院等(医療機関)に行ったから	4.05	2.93	1.12

※5件法なので、評価点>3が「有効」ととらえていることになる

先生と生徒の評価が分かれた項目だよ

例えば、同じような人の存在を先生は否定的にとらえているのに、生徒は有効と感じているんだね

復帰の成功モデルが安心感につながっているのかな？

子どもたちは待っています！ 先生方のサポートを！！



事例 一不登校経験者への聞き取り調査から一

<親身になってくれた友達 (信頼できる友達、友達への信頼)>

—A子—

中学1年3学期から中学2年1学期
中学2年3学期から中学3年1学期、保健室登校

中学2年になって同級生の友達が家に毎週1回必ず来てくれた。初めころは「来ないで欲しい」という感じで対応していたのに、必ず来てくれた。

夏休みが近付いたころ、友達のことや自分のことなどいろいろと考えていると、それまで「私はかわいそう」と思っていたのが「かわいそうじゃない」と思えてきた。このころ、周囲から「かわいそうな子をどうにかしてあげる」という態度やはれ物にさわるような対応をされるのが嫌だった。そして、「自分が動かないと何も変わらない」と感じて行動し始め、2学期は登校した。

3学期になってまた登校できなくなったが、3年の1学期、毎週家に来てくれていた友達が「保健室に会いに行くよ」と言ってくれたので、「もう一度動けそう」と保健室に行くようになった。

高校は友達から余り干渉されない雰囲気があり、教室にも居やすかった。そして、数日間自分について考えるうちに、学校に行けなくなった原因を人のせいにするのをやめ、「自分が変わらないと周囲は変わらない」と自分の意識を変えていった。それから何かあってもじっくり対処できるようになり、人間関係も落ち着いていった。

<心配してくれた親、先生>

—C男—

高等学校1年時、転校

転校する前の高校で、担任の先生が心配して家庭訪問をしてくれた。家庭訪問では「学校に来い」とは言わず「どうしてた」と声をかけてくれた。

両親も心配してくれた。特に、父とは趣味が同じでよく話を合わせてくれていた。そんな父からしかられ、今のままではいけないと気が付いた。もう一度高校生活をするために転校した。

転校した高校で友達ができ、誘われて演劇部に入った。演劇をやっていると嫌なことなど何も考えないで夢中になれた。そのうち、自分が何をどうしたいか見えてきた気がする。

<自分の気持ちを尊重してくれた母>

—B男—

中学2年から中学3年

小学校のころ、転勤で何度も転校して友達ができなかった。4年のころから学校に行くのが嫌だったが母に無理矢理連れて行かれていた。中学に入学してからも1年間は同じようだった。

中学2年になると、自分の体が大きくなったのでそれまでのように母が連れて行くことができなくなった。何日か欠席した後、母が自分の気持ちを尊重して、それまでよりそっとしておいてくれるようになった。それから学校に行くというストレスから解放され、気分が楽になりいろいろと考えるゆとりもできた。外に出てみようかなという気分にもなり、「高校に行かないといけない」という気持ちも出てきた。2年の終わりのころ、母親から「高校へは行かないといけない」と言われた。自分もそう思ったので高校を受験した。

<話をしっかり聞いてくれた先生>

—D子—

中学2年1学期から中学3年1学期

休み始めた中学2年時の担任からの週1回の電話。「元気にしてるか」と声をかけられ、学校行事などの報告をしてくれた。登校を促すような言葉はなかった。初めころは電話がかかってきたときには嫌で出たくなかった。でも、話をした後はいくらかすっきりした気持ちになった。次第に電話に出ることが嫌ではなくなっていくた。

中学3年を迎える春休みに、新年度に向けて友人関係などいろいろなことについて考えながら自宅から数キロを歩くと少しだけすっきりした。

復帰したばかりの中学3年時、休みかけると担任が話を聞いてくれた。家族にも話していない、不登校の原因や嫌な出来事などをひたすら聞いてもらえた。そのうち、「人それぞれだ」と思え始めひらきなおれていった。



先生方の声 —教師への聞き取り調査から—

生徒との接点は教師がつくる。

- ・ 時には先生ではなく一人の大人（お兄さん）としてかわる。
- ・ ゲームなど生徒の好きなことを一緒に楽しむ。（中学校教諭）

当たり前のことを熱心にする。

- ・ 欠席したら家庭訪問。
- ・ さ細なことで迅速に対応。（中学校教諭）

おい、
どうしてる？
これから行くからな。

長期にわたる生徒には適度な距離感で見守る。

- ・ 気にかけていることが伝わるようにかかわる。
- ・ 学校に来れば声をかける、深刻にならないような声かけをする。
- ・ 欠席していたら電話をして起こす。
- ・ 欠課時数が多くなったら、遅刻させないように朝から電話する。（高等学校教諭）

何時に来た？
よく来たなあ。

話しやすい環境づくり。

- ・ 複数生徒の居場所をつくる。
- ・ 机、いすなどのレイアウトを工夫する。（中学校養護教諭）

困ったら
いつでもおいで。

保護者との信頼関係づくり。

- ・ こちらから連絡を取る。
- ・ 保護者の話は受容的、共感的な態度で聴く。責めたり、指示したりしない。（中学校・高等学校教諭）

教職員の共通理解を図る。

- ・ 教師間で情報を引き継ぐ。
- ・ 学年会議で話し合い、支援を検討する。
- ・ 同じ見方がかかわる。
- ・ 担任を中心とした組織的な支援体制をつくる。（小・中・高 教諭）

進路の明確化への支援をする。

- ・ 本人の不安な気持ちを察する。
- ・ 自分からは言えないもの。こちらから働きかける。
- ・ 保護者にも協力を求める。（高等学校教諭）

互いを大切にするクラスづくりをする。

- ・ クラスの友達との関係をつなぐ。
- ・ グループで協力する活動をする。
- ・ 魚釣りの話など児童に共通する趣味の話を教師も一緒にする。（小学校教諭）

担任と生徒の関係を大切にする。

- ・ 自分はコーディネーター役をする。
- ・ 生徒の相談内容を担任に迅速に連絡し対応を相談する。（中学校養護教諭）

人のあたたかさが
伝わるのが大切
なんだね！！



岡山県総合教育センターが行う支援事業

教育相談 …本人、保護者及び教職員との面接、電話相談に応じます。

面接相談

予約制

月・水・木・金曜日 9:00～19:00
火曜日 13:00～19:00
第2・第4土曜日 9:00～17:00

※第2・第4土曜日の面接相談は、長期休業中を除きます。

電話相談

月・水・木・金曜日 9:00～17:00
火曜日 13:00～17:00

医師による教育相談

予約制

毎月第4水曜日（原則） 16:00～18:00

相談専用電話番号
(0866)56-9115

学校コンサルテーション事業

…児童生徒一人一人に応じた校内支援体制の整備を各学校の先生方と共に考えます。

実施方法

予約制

来所又は派遣（指導主事の派遣旅費はセンターが負担します）

申込電話番号
(0866)56-9105



提言 ー学校復帰に向けて学校・教師ができることー

不登校の課題克服は「学校復帰」がすべてではありませんが、不登校状態にある子どもたちが「できればみんなと同じように学校に行きたい」と思っているのも事実です。そんな子どもたちへの支援として、教師にできること、教師が心がけておきたいことを10の提言としてまとめます。



なじみやすく安心できる学校やクラスの雰囲気づくり

＜ルール の 確立 と、一 人 一 人 を つ な ぎ、見 守 る 教 師 の 継 続 的 な か か わ り が 必 要 ＞



家庭訪問や電話連絡等

＜児 童 生 徒 に 教 師 か ら の 積 極 的 な 関 心 が 伝 わ る こ と が 必 要 ＞



相談機関など関係機関との連携

＜児 童 生 徒、家 族 を 支 え る 人 や 組 織 を つ な ぎ 合 う 教 師 の 継 続 的 な か か わ り が 必 要 ＞



保護者を支えるかかわり

＜保 護 者 の 状 況 や 思 い を 把 握 し な が ら、一 緒 に 子 ども を 支 え る 教 師 の か か わ り が 必 要 ＞



不登校の期間によるかかわり

＜短 期 に は 情 緒 的 な か か わ り、長 期 に は 進 路 情 報 の 提 供 や 身 近 な モ デ ル と の 交 流 が 有 効 ＞



発達段階に応じた取り組み

＜小 学 校：児 童 を つ な ぎ 合 い、安 心 で き る ク ラ ス づ く り を 進 め る 教 師 の か か わ り が 必 要 ＞
＜中 学 校：進 路 の 情 報 提 供 と 多 く の 教 師 が 気 に か け て い る こ と が 伝 わ る か か わ り が 必 要 ＞
＜高 等 学 校：将 来 や 進 路 に つ い て 一 緒 に 悩 み 考 え る 教 師 の か か わ り が 必 要 ＞



校種の接続（進学）時期のかかわり

＜小・中 学 校 の 接 続：入 学 時、担 任 を 中 心 と し た 教 師 の 積 極 的 な 言 葉 が け が 必 要 ＞
＜中・高 等 学 校 の 接 続：将 来 や 進 路 の 実 現 に 向 け て 多 く の 教 師 が か か わ る こ と が 必 要 ＞



校内での共通理解による一貫した支援

＜一 人 の 教 師 か ら 複 数 の 教 師 へ と つ な ぎ を 広 げ る 学 校 の 体 制 が 必 要 ＞



別室登校の在り方

＜不 登 校 児 童 生 徒 同 士 が 支 え 合 い、復 帰 の 成 功 体 験 の 共 有 化 が 意 欲 を う な が す ＞



将来や進路に関する情報提供

＜不 登 校 児 童 生 徒 の 今 と 将 来 を つ な ぐ 教 師 の 継 続 的 な か か わ り が 必 要 ＞

教師の積極的なかかわり



岡山県内の教育支援センター（適応指導教室）

No	市町村	名 称	電話番号
1	新見市	新見市適応指導教室 新生塾	0867-72-7744
2	真庭市	真庭市教育支援センター 白梅塾	0867-52-0732
3	津山市	津山市教育相談センター 鶴山塾	0868-22-2523
4	津山市	ポポロつやま	0868-31-1666
5	勝央町	遊悠塾	0868-38-3118
6	美作市	美作塾	0868-75-2775
7	高梁市	高梁市適応指導教室 やすらぎ教室	0866-22-7007
8	井原市	井原市適応指導教室 大山塾	0866-62-9417
9	矢掛町	ひまわりの家	0866-82-1825
10	総社市	総社市ふれあい教室	0866-92-8577
11	岡山市	岡山市適応指導教室 中央適応指導教室(あおぞら清輝)	086-226-0948
12	岡山市	岡山市適応指導教室 ラポート牧山	086-228-3115
13	岡山市	岡山市適応指導教室 トラングラー宮	086-284-8450
14	赤磐市	赤磐市適応指導教室 鳥中やまびこ教室	086-956-0170
15	瀬戸内市	瀬戸内市適応指導教室 のぞみ(瀬戸内市立青少年育成センター)	0869-22-2009
16	備前市	備前市適応指導教室 あゆみ	0869-64-0300
17	笠岡市	笠岡市教育支援センター ほっとふれんず 本室	0865-62-3399
18	笠岡市	笠岡市教育支援センター ほっとふれんず 富岡分室	0865-67-6480
19	倉敷市	倉敷教育センター 倉敷ふれあい教室	086-454-0400
20	倉敷市	倉敷教育センター 倉敷ふれあい教室 真備分室	086-698-8341
21	倉敷市	倉敷教育センター 倉敷ふれあい教室 玉島分室	086-522-0028
22	倉敷市	倉敷教育センター 倉敷ふれあい教室 倉敷中央分室	086-424-3205
23	倉敷市	倉敷教育センター 倉敷ふれあい教室 児島分室	086-472-3954
24	玉野市	玉野市適応指導教室 わかば教室	0863-33-5300



不登校に関する電話相談窓口

相談機関名	電話番号
岡山県総合教育センター【月・水・木・金 9:00~17:00, 火 13:00~17:00】	0866-56-9115
倉敷教育相談室【火~金 9:00~16:00】	086-427-0244
高梁教育相談室【月・水・金 9:00~16:00】	0866-22-9833
津山教育相談室【月・木・金 9:00~12:00, 13:00~16:00】	0868-24-1424
ハートフルおかやま110 教育相談【8:30~23:00】	086-221-7490
岡山県中央児童相談所【月~土 9:00~20:00】	086-235-4157
岡山県倉敷児童相談所【月~金 8:30~17:00】	086-421-0991
同 高梁分室【月・火 8:30~17:00, 木・金 10:00~16:00】	0866-21-2833
岡山県津山児童相談所【月~金 8:30~17:00】	0868-23-5131
岡山市こども総合相談所【月~金 8:30~17:15】	086-803-2525
岡山市教育相談室【月~金 9:30~19:00, 土 9:30~16:00】	086-224-4133

不登校児童生徒への対応 ―何が彼らを再登校させたのか―
研究協力委員会

指導助言者

新井 肇 兵庫教育大学大学院教授

研究協力委員

岡山県内公立高等学校教員 8名

常本 直史 岡山県総合教育センター生徒指導部長
西村 成人 岡山県総合教育センター生徒指導部指導主事(副参事)
野崎 誠二 岡山県総合教育センター生徒指導部指導主事(副参事)
高橋 典久 岡山県総合教育センター生徒指導部指導主事
田坂 紀子 岡山県総合教育センター生徒指導部指導主事

平成23年2月発行
編集兼発行所 岡山県総合教育センター

〒716-1241 岡山県加賀郡吉備中央町吉川7545-11
TEL (0866)56-9101(代表) FAX (0866)56-9121
URL <http://www.edu-ctr.pref.okayama.jp/>
E-MAIL kyoikuse@pref.okayama.lg.jp

お問い合わせ 生徒指導部 TEL (0866) 56-9105